

開館迫る土木図書館の整備計画

土木図書館運営委員会

委員長 米元卓介

1. 設置の目的と委員会運営の経過

土木学会は大正3年11月設立以来、来る昭和39年11月24日をもって創立50周年を迎えることになった。この間、学校、研究機関、官公庁、公共企業体、民間各企業体等、わが国土木関係のあらゆる部門にわたり学術・技術の進歩、向上に寄与して多大の成果をあげるとともに、海外の関係機関とも密接な連絡をとって活発な交流をはかり、国際的にも積極的な活動をつづけている。現在会員総数19000名に迫り、土木界の各分野のみならずひろく各界にあってその活躍は誠に目ざましい。土木学会はここに半世紀におよぶ文化の進展、発達に貢献した幾多の業績を記念するために、創立50周年の一大モニュメントとして、土木図書館を建設し、数十年間に集積したぼう大な文献、資料を整備するとともに新たな図書、資料の購入収集をはかり、これを土木技術者はもとより広く一般の利用に供し、もって土木工学の進歩および土木事業の発展に寄与することを企てた。

この事業を企画推進するために学会内に創立50周年記念事業委員会が発足し、この事業実施に要する資金の募集と、図書館建設用地の調達、建物の設計の作業が併行して進められ、会員ならびに関係各位の賛同、支援によって記念事業資金の募金も順調にとり運ばれつつある。一方、用地問題も昭和38年12月に解決を見、現在の学会本部の隣接敷地に建築許可が下り、さらに、昭和39年1月、図書館法にもとづく公共図書館としての認可が得られた。かくして、土木図書館の建設は6月19日着工の運びとなり、来る11月24日学会創立記念日の開館を目前に現在鋭意工事が進められつつある。

土木図書館運営委員会は、この土木図書館に備えなければならない図書、文献、資料等の購入、収集、整備、保存、活用等図書館の運営に関する事項いっさいを審議することを目的として、昭和39年2月、学会内の常置委員会として設置された。発足の頭初において、まず土木図書館の基本的なあり方について慎重な討議を重ね、土木図書館の存在を意義あらしめる運営の基本方針を決定確認したのち、この基本線にもとづいて図書館の整備、運営

に関する具体的細目について順次審議を進めた。かくして委員会発足以来、本委員会4回、幹事会7回を開催し、その間、運営事務審議および分類整理方式審議のための各分科会を設けて分掌事項の審議に当らしめ、去る9月の本委員会において、土木図書館のために必要ないっさいの事項の審議結果をとりまとめ、一応の結論を作成した。この結論にしたがって、図書、雑誌の購入、整理、資料の収集、什器類の購入等は着々と進められつつあり、図書館の建設工事と相まって、会員の期待にこたえるべき姿に一步一步近づきつつある。以下簡単に、土木図書館の整備ならびに運営に関して委員会のまとめた結論の要点を紹介しよう。

2. 土木図書館の基本的あり方

土木図書館は本会会員をはじめ会員以外の土木技術者ならびに広く一般の利用に供せられることを目的として開設される。したがって、土木工学に関する図書、資料はもちろん、関連分野の図書も十分に整備すべきであるが、土木工学に限ってもその専門分野は多岐にわたり、広範囲にわたるぼう大な種類・数量の図書をすべて揃えることは、施設、予算の面から困難である。それゆえ、当面、図書整備の重点をつぎの2点、すなわち、

(1) 学会が設立した図書館としての立場を意義あらしめるに必要な図書の整備

(2) 学会の力によらなくては収集、保存が困難であるような資料の整備

にしぼり、この基本線にしたがって、以下の各項にのべるとき具体的な図書の整備に着手した。

本委員会は、土木図書館の基本的あり方として、学会図書館の権威を備えると同時に他の公共図書館にないユニークな特色をもたせること、および、大きな組織からはなれている独立の技術者や常時焦眉の問題解決をせまられている現場マンが気安く利用でき、かつその実務の手助けとなる図書館たらしめること、の2点を確認し、常にこの点を念頭において土木図書館運営方法の審議を進めているが、上記の図書重点整備の方針もこの基本的あり方に立脚するものである。

3. 土木図書館の運営事務

土木図書館は2階建，1階は軽量ブロック，2階は軽量鉄骨造で，延べ600m²，2階に200人収容の講堂が付属している。1階の図書室は面積119m²（約36坪）で冷暖房完備である。これをオープンシステムの部分とクローズドシステムの部分に二分し，オープンシステムの部分に受付，貸出しなどの管理業務にあたる事務スペースと，12名分の閲覧施設を配置する。オープン部分の書架には，新着内外雑誌，新刊図書，土木学会誌全巻および辞書，事典，ハンドブック，年鑑などのリファレンス・ブックを配列して，自由に閲覧せしめる。クローズド部分の書架には，雑誌バックナンバー合本，和洋図書，資料類を収納し，担当職員以外の立入りを禁止する。図書の貸出しは閲覧証の提示によって行ない，閲覧は閲覧室内に限り，図書の持出しを禁止する。会員には所定の手続きを終れば閲覧証を無料で交付する。書架の収容能力は単行本換算で18500冊と見積られる。なお文献の複写は実費でサービスする。

4. 蔵書の分類整理の方法

蔵書の分類整理はすべて索引カードによるものとする。分類方式は現在学会が用いている方式にできるだけしたがうこととして，大分類は土木学会誌・論文集総索

引の分類項目を用い，細分類は管理上必要と思われる範囲で定めた。土木工学関係以外の図書はNDCによって分類することとした。また雑誌は部門別の分類項目に関係なく，アルファベット順に分類番号をつけることとした。

5. 外国雑誌の整備

土木工学の各分野ごとに英米独仏の代表的な雑誌を選定し，整備計画案を決定した。総数75点で，国別の数はアメリカ27点，イギリス14点，フランス9点，ドイツ11点，その他（伊，露，ポーランド，東独，オーストリア，インド，スイス等で大部分が寄贈）14点である。これらのうち，現在学会で購入している雑誌は26点，寄贈を受けているもの19点，新規購入の雑誌30点である。整備期間は，重要な雑誌14点については1954年にさかのぼって10年間のバックナンバーを全巻蒐集し，26点については1964年（一部1963年）以降を購入，その他の雑誌については入手可能な範囲でバックナンバーをそろえることとする。

6. 国際会議論文集の整備

本図書館を特色づける蔵書の一つとして，国際会議の論文集を過去から将来まで整備する方針のもとに，土木の各分野に係る32国際会議（表-1）について

表-1 国際会議論文集整備計画

*印：学会に現在備付あるもの

No.	国際会議名	整備可能な年度(回)
1	International Association for Hydraulic Research (I.A.H.R.) 国際水理学会	1937(1st), 1939, 1948(2nd), 1949(3rd), 1951(4th)*, 1953(5th)*, 1955(6th), 1957(7th), 1959(8th), 1961(9th), 1963(10th)
2	I.A.H.R., Symposium on Cavitation & Hydraulic Machinery 同上, キャビテーションおよび水力機械シンポジウム	1960, 1962*
3	Conference on Coastal Engineering 国際海岸工学会議	1950(1st), 1951(2nd), 1952(3rd), 1953(4th), 1954(5th), 1957(6th), 1960(7th), 1962(8th), 1964(9th)
4	International Congress on Irrigation and Drainage 国際かんがい排水会議	1957(3rd), 1963(5th)*
5	Permanent International Association of Navigation Congress (PIANC) 国際航路会議	1957(19th), 1961(20th)
6	International Harbour Congress 国際港湾会議	1954(2nd), 1958(3rd), 1964(4th)
7	International Association of Scientific Hydrology 国際陸水学会議	1948, 1954, 1956, 1957, 1960, 1963
8	International Congress on Large Dams 国際大ダム会議	1958(6th), 1961(7th), 1964(8th)
9	International Water Supply Congress 国際水道会議	1949(1st), 1952(2nd), 1955(3rd), 1961(5th), 1964(6th)
10	International Conference on Water Pollution Research 国際水質汚濁研究会議	1962(1st), 1964(2nd)
11	Interamerican Congress of Sanitary Engineering 汎米衛生工学会議	
12	International Conference on Waste Disposal in the Marine Environment 海洋における放射性廃棄物に関する国際会議	1960(1st)

13	International Conference on Peaceful Uses of Atomic Energy 原子力平和利用国際会議	1955, 1958, 1964
14	International Congress of Applied Mechanics 国際応用力学会議	1960(10th)
15	International Union of Theoretical and Applied Mechanics 理論および応用力学国際合同会議	1960
16	Symposium on Rock Mechanics 岩盤力学シンポジウム	1961
17	International Conference on State of Stress in the Earth's Crust 地殻の応力状態に関する国際会議	1963
18	World Conference on Earthquake Engineering 国際地震工学会議	1956(1st)*, 1960(2nd)*, 1965(3rd)*
19	International Conference on Soil Mechanics and Foundation Engineering 国際土質基礎工学会議	1948(2nd)*, 1953(3rd)*, 1957(4th), 1961(5th)*
20	Asian Regional Conference on Soil Mechanics and Foundation Engineering 土質基礎工学アジア地域会議	1963(2nd)*
21	European Regional Conference on Soil Mechanics and Foundation Engineering 土質基礎工学ヨーロッパ地域会議	1963
22	International Clay Conference 国際粘土会議	1963
23	International Conference on the Structural Design of the Asphalt Pavements アスファルト舗装構造工学国際会議	1962(1st), 1952(9th), 1956(10th)
24	Permanent International Association of Road Congress 常設国際道路会議	1960(11th)
25	International Road Federation 国際道路連盟太平洋地域会議	1961(1st)
26	International Association for Bridge and Structural Engineering 国際橋梁構造会議	1932(1st)*, 1936(2nd)*, 1948(3rd), 1952(4th)*, 1956(5th), 1960(6th), 1964(7th)
27	International Congress on Nondestructive Testing 国際非破壊試験会議	1963(4th)
28	International Symposium on Stress Wave Propagation in Materials 材料の応力伝播に関する国際会議	1959
29	Federation International de la Precontrainte プレストレスト コンクリート国際会議	1953(1st), 1955(2nd)*, 1958(3rd)*
30	World Conference on Prestressed Concrete プレストレスト コンクリート世界会議	
31	International Congress of the Precast Concrete Industry プレキャストコンクリート国際会議	
32	International Symposium on the Chemistry of Cement 国際セメント化学シンポジウム	1938(2nd), 1952(3rd), 1960(4th)

既刊の論文集を収集することとした。このうち入手可能の見とおしのついた年次を表-1に示す。欠号については極力入手の努力をつづけるが、この点について特に会員各位のご協力を仰ぎたい。もちろん、今後開催会議の論文集はもれなく収集する。

7. 洋書単行本の整備

かたよりのない学問体系の縮小版の形をととのえる目的で、土木各界の権威者に依頼して推薦を受けた世界の代表的な著書と目される図書約230点をとりあえず開館時まで購入することとした。部門別の購入予定図書の点数は表-2に示すごとくで、基礎部門については20点、応用部門については10点を基準に選定した。

表-2 洋書単行本購入予定数

部 門	点数	部 門	点数
1. 応 用 力 学	19	13. 港 湾	6
2. 土 性 お よ び 土 質 力 学	19	14. 海 岸	10
3. 水 理 学	14	15. 水 文	10
4. 測 量 学	7	16. 河 川	9
5. 材 料 学	9	17. 水 力 発 電	9
6. コ ン ク リ ー ト	20	18. 火力, 原子力発電	6
7. 橋 梁 学	8	19. ダ ム	8
8. 金 属 構 造 物	8	20. ト ン ネ ル	8
9. 鉄 道 学	11	21. 施 工	15
10. 道 路 学	9	22. 土 地 改 良	4
11. 都 市 計 画	8	23. 防 災	4
12. 衛 生 工 学	13	合 計	234

8. 洋書の百科事典, 辞書, リファレンス・ブックの整備

百科事典としては, Encyclopedia Britanica, American Educator Encyclopedia, McGraw-Hill Encyclopedia of Science and Technology, および Der Grosse Brockhaus の4点, 辞書としては, 各種外国語の辞書および土木ならびに工学関係の用語術語辞典 28点を備える。リファレンス・ブックとしては, 土木の各分野に関するハンドブック 17点のほか, ASTM Standards, Engineering Index, Atlas of the World など 15点を整備する。

9. 和書および国内雑誌の整備

以上に述べたごとく, 洋書および外国雑誌の整備については予算ならびに買付期間の関係で極力迅速に審議を進め, 開館に間に合うよう第1次整備案を決定したのであるが, 和書および国内雑誌の整備計画については, 目下審議中でいまだ完全な決定を見るに至っていない。これまでの審議経過によれば, 和書については土木工学に関する著書はほとんど網羅することとして約370点, 科学一般, 数学, 物理, 地学, 工学一般, 建築, 機械, 電気等に関する著書のうち著名なものおよび土木技術者の利用に供して便なるもの約190点, 叢書, 便覧, 事典, 年鑑, 講座, 法規, 規格等約55点, 高校生を対象とする図書, 参考書類約66点が, 一応の案としてあげられている。

また国内雑誌については, 土木関係の雑誌と思われるものの大部分, 約155点が現在学会に寄贈されてきており, それらのバックナンバーの合本整理作業を進めるかたわら, 必要な新規購入雑誌についても調査をつづけている。

10. 資料の整備

資料の収集, 整理は図書館整備の基本方針の一つとして本図書館を特色づける重要な作業である。ここで総称する資料とは, 大学, 研究機関, 官公庁, 各種企業体の非公刊資料, 工事誌, 設計図集等であって, 個人では入手や閲覧が困難でかつ逸散しやすいこれら数多くの貴重な資料を網羅収集し, かつそれらを綿密に整理して, 一般の閲覧に供するとともに長く保存することは, 土木図書館の存在価値を一段と意義あらしめるものであると確信する。しかしこれらの資料の収集は会員各位の協力なくしては絶対に不可能であって, 委員会としては, これらの資料の収集のために近く土木関係各事業所に協力方を要請すべくその準備を進めているが, 会員各位におか

れても, 会員相互の利益のために, 資料提供に関し絶大なご援助をたまわるよう, この機会に紙上をかりてお願い申しあげる次第である。

なお, 別に, 全国各種図書館ならびに各事業所付属図書館の蔵書リストを完備して, たとえ土木図書館に必要とする図書・雑誌がない場合でも, 他どの図書館に行けば調査の目的が果たせるかが迅速に判明するようなシステムにしたいと考えている。

む す び

土木学会図書館運営委員会は, 11月24日学会創立記念日の開館式を目標に, 第1次の整備計画の審議を完了し, その線にそって図書・資料の購入・収集・整理が着々と進められている。何分にも限られた期間での審議であったため, ここに報告した運営の基本方針や整備計画に疎漏な点も多く, また多くの会員の中には異なった意見をお持ちの方々も少なくないであろう。それゆえ, 必要に応じ, 適切な方法で会員各位の意見を聴取し, それらを十分反映させて今後の委員会の審議を進め, 土木図書館の内容を漸次充実したものに発展させたいと願っている次第である。

〔付記〕表-1は欠番について会員各位のご協力を切望したために特に掲げた。その他のリストについては追って詳細にお知らせする予定である。

土木図書館運営委員会構成

委員長	米 元 卓 介 (早大)
委員	久 野 悟 郎 (中大)*
同	左 合 正 雄 (都立大)
同	酒 井 清 太 郎 (名工大)
同	長 山 泰 介 (原研)*
同	樋 口 芳 朗 (鉄研)
同	松 尾 新 一 郎 (京大)
同	松 本 順 一 郎 (東北大)
同	三 宅 政 光 (田無工業高)
同	森 茂 (コンサルタント)
同	八十島 義之助 (東大)
幹事長	千 秋 信 一 (電研)
幹 事	浅 川 美 利 (日大)
同	石 原 研 而 (東大)
同	尾 坂 芳 夫 (国鉄)
同	駒 田 敬 一 (土研)
同	是 枝 忍 (電研)
同	佐 藤 敦 久 (都立大)
同	佐 藤 吉 彦 (鉄研)
同	波 木 守 (小野田セメント)
同	伯 野 元 彦 (生研)
同	堀 井 健 一 郎 (早大)
同	渡 辺 重 幸 (建設省)

* 分科会主査 (幹事は委員兼任)